

科目名	数的推理 II	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			全 学科	□必修 ■選択
英文表記	Mathematical Processing Skills II	開講年次	■1年 ■2年 ■3年 ■4年	
			開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
ふりがな	むらなか たかし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	村中 孝司	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	公務員採用試験の教養科目のうち、最も出題数の多い数的推理を取り組む。後期の科目では、比・割合、速度、数列、場合の数、確率、平面図形などを学習する。			
到達目標	数的推理マスターを目指す。			
授業概要	公務員試験教養科目「数的推理」の基本を理解し、演習問題を解く。			
授業計画				
第1回	ガイダンス			
第2回	比・割合① 比、割合の基本			
第3回	比・割合② 損益算			
第4回	比・割合③ 濃度			
第5回	比・割合④ 仕事算			
第6回	速さ・距離・時間① 速さ・距離・時間			
第7回	速さ・距離・時間② 流水算、通過算			
第8回	座標・グラフ 数直線、図示			
第9回	場合の数① 場合の数、樹形図、順列、			
第10回	場合の数② 重複順列、同じ者を含む順列、円順列			
第11回	場合の数③ 組合せ、重複組合せ			
第12回	確率① 確率、和事象、積事象			
第13回	確率② 条件付き確率、独立試行の確率			
第14回	平面図形① 平行線、線分			
第15回	平面図形②・空間図形 面積、三平方の定理、体積、表面積			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	小学校算数、中学校数学、高等学校数学Ⅰ・Aを理解しておくことが前提である。予習2時間、復習1時間程度必要です。予習していること（例題に目を通すこと）を前提として授業を進める。			
履修条件 受講のルール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公務員（大学卒程度）を目指す学生対象。基礎数学Ⅰを履修済み、もしくは同時に履修することが望ましい。基礎数学Ⅰの内容を理解していることを前提としている 2. 数的推理Ⅰを履修済みであることが望ましいが、もし未履修の場合は、夏期休暇中に第1章から第6章の内容を理解しておくこと。 3. 遅刻厳禁、1分でも遅れた場合は例外なく欠席扱いとする。 4. 教科書を必ず持参すること。教科書を持参しない場合は例外なく欠席扱いとする。 5. 予習、復習を心がけること。予習したかどうかを授業中に確認することがある。予習していないことが判明した場合は欠席扱いとする。 6. 授業には筆記具は必須である。教科書のほか、ノート（ルーズリーフ可）を必ず持参すること。 7. 第1回、第2回の両方ともに欠席した学生の受講を認めない。 8. 授業中のスマートフォン使用、居眠り等に対しては、厳重に処分する。 			

テキスト	田辺勉『上・中級公務員 標準数的推理』実務教育出版
参考文献・資料	講義中に紹介する。
成績評価の方法	<p>試験 (70%)、レポート・課題提出・小テスト (30%)</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断する。再試験は例外なく実施しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とする。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。 ・レポート課題は授業内又はポータルサイトで指示する。
オフィスアワー	火曜 14:40～16:10、水曜 14:40～16:10 その他の曜日時間帯も可能、予約必要なし。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	公務員試験に数的推理（類するものとしてSPI 試験の非言語）が出題されるのはなぜなのでしょう。公務員として働く意欲のあるみなさん、数的推理のような教養試験がどのように採用試験に関係しているか、考えてみてください。